

2010年3月期 第1四半期決算 カンファレンスコール 質疑応答 (要約)

Q.

概ね会社計画どおりに推移しているとのことだが、一見、営業利益は上ぶれているように見受けられる。第1四半期と比べて第2四半期の原価率が悪化し、販管費も第2四半期に集中する計画だったのでしょか。

A.

原価率については、当初から第2四半期には若干の悪化を見込んでおり、今のところ悪化を見込んでいる。今年度の原価率のパターンは、制度改正のない年であった一昨年と似通ったパターンを描くのではないかと考えている。

販管費については、期初計画でも第2四半期に増加する計画だが、第1四半期からの期ズレ分が約3億円あり、これも第2四半期に発生してくることを見込んでいる。

以上により、第2四半期の利益としては、やや悪い形で出てくると予測している。

Q.

某調査機関のデータから、卸ルートの売上は7月も前年比20%以上の増加であるとのことだが、実感としてはどうか。

A.

昨年7月は新製品が発売されたが、今年は2か月早い5月に発売した影響で、7月単月は厳しいと考えていたが、順調に推移している。

Q.

保険薬局市場では、GEが急激に増えている状況は見受けられないが、病院市場では、DPC病院などで来年度の制度改定をにらみ、GE使用を加速する動きは見られるのか。

A.

まだ面として動いている状況ではないが、大学病院などの基幹病院がGEを採用し、地域の病院にも波及していくという動きが一部で顕在化しており、徐々に浸透していくと見ている。

Q.

今年5月に発売された新製品の販売動向は。

A.

今年5月の新製品として、20成分34品目を発売している。なかでも、当社しかないGEであるハルスローOD錠（口腔内崩壊錠）の売上が順調に推移している。

Q.

原価率について、第2四半期は悪化し、通期では改善していくようだが、この計画が変わるような要素は今のところ起きていないということか。

A.

今後、来年の制度改正に向けて、需要が想定以上に拡大する可能性は高いので、それに対応した増産はありうると考えている。